



(株)豊田自動織機様 ボランティアありがとうございました

11月6日(日) (株)豊田自動織機 社会貢献グループ 東知多工場 班長会と学友会19名の方々が、今回10度目の福祉施設ボランティアでりんりんへ来てくださいました。当日はとても良い天気、エアコンのフィルター掃除や草取り、“りんごびあ”では普段手の届かない高い所の作業をしていただき、大変きれいになりました。

作業後は、“りんりん日曜料理グループ”の作ったカレーを食べていただき、よろこばれました。

(株)豊田自動織機の皆さん、今回も本当にありがとうございました。



～サービスマーケティングを終えて～

日本福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科
小川輝久、伊藤実梨、渡邊由梨

サービスマーケティングは、6日間という非常に短い期間でしたが、たくさんの方々と関わらせていただき、とても良い経験になりました。座学だけではわからないこともたくさん見つけることができました。子どもたちや高齢者の方々と接するときには、同じ目線に立つということ、笑顔が大切であるということも改めて学び、今後気をつけたいと感じました。

様々な分野を体験させていただき、地域や人との繋がりの大切さがわかりました。これからの学びをより深めていきたいと思っております。ありがとうございました。



平成29年(2017) 1月

No. 70

発行/特定非営利活動法人 りんりん
半田市岩滑高山町5丁目4番地
TEL(0569)21-3646 FAX(0569)32-6623
http://rinrin.or.jp E-mail npo@rinrin.or.jp

ありがとうございます

皆さまのあたたかいご支援が
りんりんを支えています。

ご寄付ありがとうございます

水野 陽子 ほか (敬称略)

平成28年度賛助会員

榊原 安宏 (敬称略)

りんりんのできごと

- ・りんごクラブ
12/16 カレーナイト…………… 86名
1/5 炊き出し やなべお助け隊と一緒に
- ・ゆめりんご
12/16～21 クリスマス会
- ・りんごびあであそぼ
10/17 木の実マラカスづくり
11/14 新美南吉記念館へおでかけ
12/12 クリスマス会
- ・冬休み「やなべっ子ハウス」りんりんにて開催分
12/27 さをり織り体験 12/29 作って食べよう



さをり織り体験

～ヘルパー研修会～

- 10月 医療行為を必要としている利用者に対するの注意点 …… 34名
- 11月 介護職に求められる接遇マナーと訪問介護サービス提供の考え方… 39名
- 12月 精神障害の支援 介護者のケア …… 36名

多世代交流事業

	10月	11月	12月
生き生きサロン	143名	122名	111名
さをり織り	57名	71名	49名
絵手紙	13名	9名	17名

(H28/12月末現在)

会員数

賛助会員	利用会員	協力会員	合計
23名	79名	105名	207名

(H28/12月末現在)

特定非営利活動法人 りんりん



“自分ごと”

酉年の新年を迎え、良きことを多くとり込める年にしたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

最近の報道では「子どもの貧困」「子どもの虐待」が話題になることは特別珍しいことではなくなり、「あーまたか、かわいそうにね。でも私にはあまり関係のない話だわ」と思う人もいるかもしれません。ところが、私たちが子育て世代宅を訪問する事業の中で、気になり続けていたことがあり、ある本からそれを再認識させられ、衝撃を受けました。
“六人に一人いるとされる貧困の子どもを放置すると、年間約四十兆円が失われ、国民一人ひとりの負担が増える!「かわいそう」では済ますことのできない日本の最重要課題である”と書かれています。皆さんにも読んでいただきたい本です。

すでに福祉・保育現場での人手不足は深刻化しているのに、これ以上担い手を失うことはできません。“ニッポン一億総活躍プラン”を国も打ち出しており、私たち一人ひとりが“他人ごと”ではなく“自分ごと”として



考えられるかどうかまさに問われているのだと思います。貧困とは、経済的な貧しさだけを指すのではなく、健康状態、家族や家庭状況、働き方、人との繋がり方などに端を発し、それぞれの生きづらさに拍車をかけるのです。自分の子どもや孫たちにもあり得るかもしれない“自分ごと”と思いませんか?

りんりんでは、三月からスタートする半田市の予防介護・日常生活支援総合事業を踏まえ、たすけあい事業を見直します。

歳をとってからのことこそ“自分ごと”として取り組みたいものですね。

理事長 下村 裕子

※「子供の貧困が日本を減らす」日本財団 子どもの貧困対策チーム



“いつも笑顔”

りんりん新監事
榊原 安宏さん

今年度から監事に就任いただいた榊原さんは、現在“亀崎まちおこしの会”や“ごんのふるさとネットワーク”などのNPO法人をたちあげ、事務局で活発に活動しています。前者は、昔の街並みと伝統を多く残している、亀崎の空き家対策を主として始めましたが、カフェを開いたり、遠方からの人の定住を手伝ったりなど、今や地域でたくさんの賛同者を得て大きな動きとなりました。後者では、以前からあった岩滑‘みちの駅’構想の実現に向けて奔走しています。「人と人を結びつけていかにうまくやっていくかを考えるのはとても楽しい。調整役にまわるのは私の性にあっています。」とニコニコと話される様子は本当に楽しそうです。

りんりんのみなさんは、現場を重視し、何よりもサービスを受ける人の身になって動いているようにみうけられます。今までどおり‘よりよく’を目指して変わってほしいですね。また介護だけでなく岩滑の問題解決にも地域と連携して、その核を担うような存在になってほしいと思います。また、元気な高齢者は一若葉、青葉、ゆずり葉のごとく、未来ある若い人たちを教え導き、応援するような立場になって、さらに活躍してもらいたいですね。

「請われるままに今まで、市議員、観光協会などいろんな組織、たくさんの人にかかわってきましたが、難しい問題も起きてきます。しかし、それも必然。次にどうやっていくかを考えていけばいいことだし、悪いことはなにもないと思います。深く考えると対立しますからね。私は、心はいつも浮遊していたいですね。」という言葉が印象的でした。あの笑顔と人をリラックスさせる雰囲気もここに繋がっている・・・と感じました。(T)



～りんごびあの1年を振り返って～



りんごクラブ

りんごクラブが、りんりんの敷地内のトレーラーハウスから「りんごびあ」に移って1年が経ちました。放課後児童クラブ管理者 村上明子さんに新たな環境で子どもたちと過ごした感想をお聞きしました—

「りんごびあ」は、室内はもちろんですが外遊びの環境も整っています。全面に防球ネットが張ってあるため、子どもたちへの「ダメ!!」という注意が、とても少なくなりました。(たとえば、駐車場の車にボールを当てないように、など) それにより時間・空間・仲間の3つの大切な『間』ができ、保育に専念できるようになったことが、とてもありがたいです。

現在50名の子どもたちを預かっています。ここに来てくれる子どもたちには、この場所にある“りんごクラブ”だからこその生きる力に繋がるような経験を、より多くさせてあげたいと思っています。

そして、なによりも気をつけたいのは、子どもたちの安全です。子ども自身が危険を予測し自身がケガ等を防げるような声かけを心がけています。

今後もスタッフのさらなるスキルアップを目指します。(S)



防災 炊き出し豚汁



やなべお助け隊

門松も
 紙に変わるも
 幸同じ 旨



ゆめりんご

ゆめりんごで、児童発達支援・放課後等児童デイサービスを担当する保育士 竹内恭子さんは、まさに自然体でゆったりした雰囲気を漂わせる方。竹内さんから話を聞きました—

ゆめりんごでの児童発達支援は、未就学児が対象で、月曜から金曜の午前10時から午後1時まで。放課後等児童デイサービスは小1から高3までが対象で下校後から午後5時まで。現在は1日平均5名の児童が利用していて、この季節ウイルスなどに特に弱い子もいるので気を付けています。岩滑は恵まれた環境で、南吉記念館が近くにありよく利用させてもらっています。

2月のゆめりんごオープン時には、利用者は1人だけでしたが徐々に増え続け、今は総員21名になりました。

未就園児の支援はお母さんの支援にもつながると感じています。働いているお母さんは、子どものことを相談する時間がなかなかとれませんが、ゆめりんごではお母さんの送迎時などに職員が必ず話を聴くようにしています。

また、毎月1回未就学児童対象の「りんごびあで遊ぼ」も実施していて好評です。

りんごクラブと一緒に環境というのはよいことで、りんごクラブの子どもたちもいろんな人がいることを知り、ゆめりんごの子どもたちとも仲良く遊んでいます。

ゆめりんごのことは、いろんなところへ口コミで伝わり、利用希望者が増加しています。

今後は、“発達支援相談あゆみ”、“保健センター”をはじめ各機関とも連携を密にしていきたいと考えています。(N)

